

# それぞれの八月六日

年々巡りくる八月六日。  
あの日、われらの学園は一瞬にして廃墟と化し、多くの教職員、学生、生徒、児童を、無間地獄に陥れた。  
いま、学舎は復興し、広島大学として発展の一途をたどっているが、敬愛する先生、友人を奪われ、傷を負うたものは、誰にも訴えられない心の痛み・憤りを拭いさることはできない。  
〔生死の火 広島大学原爆被災誌〕  
あとがき―より〕  
広島市内が祈りに包まれた八月六日。広島大学でも原爆死没者追悼式が催された。  
降りしきる蟬しぐれの中、戦後五十二年目の八月六日が静かに過ぎていった。

